

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320119

研究課題名(和文) 近世日越交流史の再構築

研究課題名(英文) Reconstruction of early modern Japan-Vietnam exchanges History

研究代表者

菊池 誠一 (KIKUCHI, Seiichi)

昭和女子大学・生活機構研究科・教授

研究者番号：40327953

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本と東南アジア、とくにベトナムとの交流を物語る近世資料を系統的に集成し、先学の研究を再検討するとともに、考古学と歴史学、美術史の垣根をこえた資料学としての日本と東南アジアの交流史の開拓を行った。その結果、既存の朱印状や安南国書の悉皆調査と資料集の刊行、朱印船絵図の刊行を行い、また、考古資料として日本国内におけるベトナム陶磁器の調査、ベトナムにあった日本町調査を実施し、考古学資料から日越交流の実態を深めた。また、九州国立博物館で研究成果を一般向けに公開した。

研究成果の概要(英文)：Japan and Southeast Asia, in particular systematically assembled the early modern materials that tell the exchanges with Vietnam, as well as re-examine the research of previous studies, archeology and history, Japan and Southeast Asia as a material science that goes beyond the boundaries of art history was development of alternating history. As a result, complete enumeration and Book publication of the existing red seal shape or cheap tropical manual, do the publication of trading ships licensed by the shogunate pictorial, also, study of Vietnam ceramics in Japan as archaeological, carried out was in Vietnam Japantown investigation, It deepened the reality from the archaeological material Japan-Vietnam exchanges. In addition, it was open to the public for the research results at the Kyushu National Museum.

研究分野：ベトナム歴史考古学

キーワード：ベトナム 近世日本 朱印船貿易 朱印船絵図 陶磁器 交流史 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

日本とベトナムの交流の歴史は長い。とりわけアジア交易ネットワークが活況を呈する17世紀にはいると、朱印状を携えた多くの日本人商人が海を渡り、東南アジア各地にむかった。岩生成一の『朱印船貿易史の研究』(弘文堂、1958)によると、1604~35年の間に356通の朱印状が発給された。そのため、東南アジア各地に日本人が集住する日本町が形成された。

ベトナムへの朱印状は130通ほど発給され、全体の三分の一ほどを占める。朱印船を通じた、日越交流・交易活動が、当時のアジア交易ネットワークを牽引し、双方向にモノ・人・情報が行きかっていた。しかし、日本が“鎖国”し、牽引の担い手が中国船やオランダ船に引き継がれると、ベトナムもアジア交易ネットワークから姿を消していく。

日本近世史においてベトナムを扱った対外交渉氏の研究は、おおよそ50年前の岩生成一の研究が金字塔であり、その研究を検証し、進展させた研究に、永積洋子の『朱印船』(吉川弘文館、2001)などがある。近年は、一国史観から脱却し、グローバルヒストリーに立脚した新しい世界史叙述が求められ、「交易の時代」によって生まれた大小の港市国家と東西交易の独占をもくろむヨーロッパ勢力との交易や抗争に関する研究が盛んであり、南シナ海で展開された交易活動の研究をおこなううえでの入門書も刊行されている。

このような近年の国内外のダイナミックな学問の潮流にあって、ベトナム近世史における日越交流の研究は、研究代表者の菊池が編集した『近世日越交流史』(柏書房、2002)、『海の道と考古学』(高志書院、2010)などにとどまり、収録された論考は文献史・考古学といった専門性の枠組みをでないものであった。研究代表者の菊池は、1993年からベトナム・ホイアンにおいて日本町跡の考古学調査を継続するとともに、東南アジア各地で日本と東南アジアの交流史を考古学的に調査し、出土遺物から日本町ネットワークを解明する研究を長年実施してきた。こうしたなかで、日本とベトナムの交流を示す歴史的な事物・現象が、考古遺物以外でも多数あり、考古学のみでの研究組織では限界があると感じていた。日本におけるベトナムの文物研究も、各資料の個別的研究に終始し、具体的な史資料を学際的に比較検討する研究はなされてこなかった。

そのため、学問領域をこえた美術史、歴史学、考古学の専門家があつまった学際的な研究チームを立ち上げた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本と東南アジアの交流を物語る近世史資料を系統的に集成し、先学の研究を再検討するとともに、考古学と歴史学、美術史の垣根をこえた資料学として日本

と東南アジアの交流史の開拓を目的としている。そのため、朱印状や安南国書、日本及び東南アジアで日本商人が残した貿易関係文物、漂流関係資料、伝世及び考古遺物として出土している交易品などの既知の史資料を資料化するとともに、あらたな史資料を探索し、調査研究をおこなう。

本研究の成果は、研究者間に研究材料を広く提供し、近世対外交流史研究をあらたな段階に導くものである。

3. 研究の方法

(1)考古学、美術史、歴史学分野からの個別研究と史資料を総合的に研究するための共同研究を実施する。そのため、資料化にあたっては、美術、歴史、考古の各分野の専門家が各史資料の検証をおこなうが、他分野の担当者全員で資料化の現場に立ち会い、一次資料の実見、総合的検討をおこなう。

(2)考古学調査を国内外で実施する。ベトナムの調査地点は、北部ベトナムの朱印船寄港地ゲアン、日本商人の活動が確認されるフォーヒエン、日本町のあった中部のホイアンを調査する。また、ベトナム以外の地に収蔵されているベトナム陶磁器資料を調査する。具体的には、オランダ、アメリカ、タイなどである。国内では、17世紀のベトナム陶磁器が出土している沖縄、長崎、鹿児島、堺、京都などを調査し、その歴史的背景を考察する。



アメリカ・スミソニアン機構における調査

(3)朱印船貿易絵図、朱印状、安南国書、漂流関係史料を調査する。岩生成一が当時集成した朱印状の残存状況を悉皆調査する。また、安南国書の悉皆調査、漂流記の調査を実施し、資料化する。

4. 研究成果

(1)考古学研究の成果：ベトナム・ホイアンで出土した17世紀から19世紀にかけての陶磁器の写真撮影、実測、図版作成を実施した。実測点数は約450点である。

ホイアンには17世紀の日本町跡が存在した。今回の陶磁器調査から、日本人が住んでいたころの人びとの生活様相が判明したことである。特に、日本人がまだ存在していた17世紀後半に、日本で生産された肥前陶磁器が多量に流通していたことを確認できた。ま

た、17世紀のタイ土器の内外面に漆が付着し、これを分析したところ、ベトナム産漆であることが確認された。近年、京都の17世紀の遺跡からベトナム産漆が検出されており、漆をめぐる日本とホイアンの関係がクローズアップされることになった。

ホイアンの考古学調査の成果は、調査報告書として来年度に刊行予定である。



ホイアンにおける陶磁器調査

(2) 朱印船貿易絵図の研究成果：日本に遺る朱印船貿易の様子を描いた絵図は、「茶屋新六交趾貿易渡海」と九州国立博物館所蔵の「朱印船渡航図巻」が知られている。研究代表者、研究分担者、連携研究者で総合的な研究を実施し、制作年代や制作意図等を明らかにした。その成果は、科研費の研究成果公開促進費の助成をうけ、『朱印船貿易絵図の研究』（2014、思文閣）として出版した。



九州国立博物館にて絵図調査

(3) 朱印状、安南国書の研究：研究分担者の藤田が現存する朱印状や安南国書の悉皆調査を実施し、「安南日越外交文書集成」「続安南日越外交文書集成」として公表した。岩生成一以来の朱印状の現存調査を実施したことにより、現存する朱印状の所蔵先、数量的把握が可能となった。また、安南国書の新出史料を確認したことで、日越交流の歴史がさらに古くなった。これらの史料は研究者に研究上の利便性を多くあたえることになった。

(4) 漂流記の調査：研究代表者の菊池がベトナムに漂着した日本人の記録を収集中で

ある。このなかにも、18世紀後半にベトナム南部に漂着した大乘丸乗組員を取り調べた長崎奉行所の記録を入手した。おそらく新出史料であろう。この資料の翻刻を予定している。

(5) 成果の公開：2013年に九州国立博物館で開催された特別展『大ベトナム展 ベトナム物語』に参画し、研究成果の一部を一般向けに公表した。展示図録には、研究代表者の菊池、研究分担者の藤田、連携研究者の阿部が執筆を分担している。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

菊池誠一、ベトナムの世界遺産ホイアンと日本の歴史的関係、アジアの文化遺産、査読無、1、2015、91-107

藤田勲夫、続安南日越外交文書集成、東風西声、査読有、10、2014、21-55

黒田泰三、私の長谷川等伯研究ノート、出光美術館館報、査読無、168、2014、26-49

黒田泰三、長谷川等伯の多彩な画業、長谷川等伯-その多彩な画業展、査読無、2014、6-16

菊池誠一、近世日越交流史の再構築をめざして、2014年度VOL.3 科研費NEWS、査読無、3、2014、4

菊池誠一、ベトナムにおける近年のチャンパー陶磁の研究、昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、Vol.21、2014、105-108

菊池誠一、橋本唯、江戸時代のベトナム・ホイアン漂着事例-「安南国漂流記」(写本)の紹介、新田栄治先生退職記念東南アジア考古学論集、査読無、2014、1-8

藤田勲夫、安南日越外交文書集成、東風西声、査読有、第9号、2013、1-59

菊池誠一、ベトナム・クーラオチャム沖沈没船、季刊考古学、査読無、123号、2013、88-90

菊池誠一、ホアジェム遺跡(カインホア省)からみたサーフィン文化の領域(翻訳)、ベトナム中部・ホアジェム遺跡発掘報告書、昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、Vol.17、2013、269-273

菊池誠一、一括出土銭の容器の編年的位置づけ、ベトナム北部の一括出土銭の調査研究2、昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、Vol.16、2013、148-150

阿部百里子、菊池誠一、ベトナム中部における一括出土銭の調査研究、東南アジア古代・中世考古学の創生、査読無、2013、83-89

菊池誠一、海外調査-ベトナムの過去、現在、未来-、月刊考古学ジャーナル、査読無、No.627、2012、32-33

菊池誠一、阿部百里子、ベトナムの出土銭、月刊考古学ジャーナル、査読無、No.626、2012、5-7

〔学会発表〕(計6件)

菊池誠一、近世期のアジアにおけるベトナムと日本、ホーチミン市国家大学・国際交流基金共催国際シンポジウム、2016年3月19日、ホーチミン市(ベトナム)

Y.Iizuka, J.Uchida, S.Kikuchi, T.Miyake、Metallurgical study of Chinese and Vietnamese coins from a Hoard in Northern Vietnam、アジア鑄造技術史学会、2015年8月29日、中部大学名古屋キャンパス(愛知県・名古屋市)

菊池誠一、朱印船貿易絵図と考古学調査、ハノイ国家大学国際シンポジウム、2013年9月19日~9月20日、ハノイ市(ベトナム)

菊池誠一、セッション5「東アジア・東南アジアにおける一括出土銭の最新研究」趣旨説明、一般社団法人日本考古学協会、2013年5月26日、駒澤大学(東京都・世田谷区)

菊池誠一、ベトナムにおける水中考古学調査、東南アジア考古学会、2012年11月18日、昭和女子大学(東京都・世田谷区)

菊池誠一、朱印船貿易絵図とベトナム・ホイアンの考古学調査、広南阮氏国際会議(1558~1885)、2012年5月12日、香港(中国)

〔図書〕(計6件)

Kikuchi Seiichi、Abe Yuriko 他、国家政治出版社(ベトナム)、NHAN CACH SU HOC、2014、832(菊池・阿部:315-328)

菊池誠一、藤田励夫 他、世界出版社(ハノイ)、越日交流史、2014、416(菊池:43-52、藤田:29-42)

菊池誠一、黒田泰三、藤田励夫、安蔵裕子、グエンバンキム、ファンハイリン、阿部百里子、思文閣出版、朱印船貿易絵図の研究、2014、97(菊池:25-33、菊池(翻訳)49-53、黒田:3-13、藤田:15-24、阿部(翻訳):55-60)

菊池誠一、藤田励夫、阿部百里子 他、九州国立博物館、大ベトナム展 ベトナム物語、2013、275(菊池:11-16、藤田:17-22、阿部:154-155)

菊池誠一、阿部百里子 他、高志書院、陶磁器流通の考古学、2013、299(菊池・阿部:215-232)

菊池誠一 他、吉川弘文館、地球的世界の成立、2013、328(菊池:229-242)

6. 研究組織

(1)研究代表者

菊池 誠一(KIKUCHI, Seiichi)
昭和女子大学・生活機構研究科・教授
研究者番号:40327953

(2)研究分担者

黒田 泰三(KURODA, Taizou)
公益財団法人出光美術館・学芸部・学芸部長
研究者番号:60392883

藤田 励夫(FUJITA, Reio)(H25年度まで)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・科学課・保存修復室長

研究者番号:00416554

(3)連携研究者

阿部 百里子(ABE, Yuriko)

昭和女子大学・国際文化研究所・客員研究員

研究者番号:50445615